

Courier Correo Courier

October 2016
Volume 31, Number 2



**Mennonite
World Conference**
A Community of Anabaptist
related Churches

**Congreso
Mundial Menonita**
Una Comunidad de
Iglesias Anabautistas

**Conférence
Mennonite Mondiale**
Une Communauté
d'Églises Anabaptistes

3

Inspiration and Reflection

Global Anabaptist Project: A unique opportunity for greater unity

8

視点

Our member churches express the MWC Shared Convictions in beautiful, local variety throughout our global body

15

Regional Profile

Eastern Africa

17

Resources

Indonesia 2021, Renewal 2027, meet MWC's regional representatives and more



編集者より



アナバプテストとは何か

アナバプテストであるとはどういう意味でしょう。世界には87カ国に305団体、210万人のアナバプテスト・メノナイトがいますが、メノナイト世界会議(MWC)に属する多くの人々が、この問いに頭を悩ませています。

この問いに答えようと、MWCとグローバル・アナバプティズム研究所が共同でデータを集めました。

24カ国の教会からサンプルを調査した結果がグローバル・アナバプテスト・プロフィール(GAP)です。このプロフィールから読みとれることを、エリザベス・ミラーが「より一層の一致のためのユニークな機会」で報告します(本号3~7頁)。

GAPは本号10~11頁にあるMWCの「共有の確信」にそって構成されています。「共有の確信」は冊子から取り外したりMWCのホームページからダウンロードできます(これら7つの声明は、教派や文化に関わりなく、私たちがアナバプテストとして信じていることを簡潔に表明したものです)。

本号の「視点」のセクション(8~14頁)では、スイス、カナダ、メキシコ、インドネシア、ジンバブエから、それぞれの文脈で教会がこれらの原則をどう生かし、教会の生活と文化に反映させているかを書いてもらいました。

このプロジェクトを通じて自分たちが何者であるかを理解しようとするのは、宗教改革500周年を見据えて、私たちの来し方をふりかえる上で重要です。急激に変化するこの世で、こんにち私たちがイエスにしたがうことを可能にするアナバプティズムの賜物とは何でしょう。

マルティン・ルターの有名な95カ条の論題を記念したすぐあとには、アナバプテスト運動500周年が控えています。これを記念するべく、MWC信仰と生活委員会の主導により、今後10年がかりで歴史を記念し、現状を検討し、未来に向け計画する「リニューアル2027」が始まります。疑問と分裂から始まった私たちの運動が、イエスに従う者として成熟しつつ、当時の過激さをどう受け継ぐことができるでしょう。私たちの成長が単に人数だけでなく、この世に平和を作り出す神の民として生きることの重みをより深く理解することにどう注目できるでしょう。

また、一致と協力にとってリニューアル(刷新)はどんな意味をもつでしょう。他のアナバプテスト系の教会とより近くなるのに「共有の確信」が役立つでしょうか。地域や言葉によって福音は異なった形で伝えられていますが、おそらく私たちの確信は霊において私たちを世界の人々と結びつけるだけでなく、私たちの近くにいたメノナイトやキリスト教徒ともより近しく働くことを促すでしょう。

次の500年は、これまでの500年を特徴づけてきた分裂を克服し、さらには以前はなかったつながりすらつくり出すことを、目標とすることができるでしょう。

何世紀も後に、アナバプテストであるとはどういう意味かと問われたら、何と答えましょうか。私の祈りは、私たちが「神から遠くにある人々と近くにある人々との間に立ち、和解のために奉仕する務め(2コリント5:18)を通して一致と多様性においてイエスに従う、一つにして多である教会」であることです。

カーラ・ブラウン(クーリエ編集長、MWC記者、カナダ・ウィニペグ在住)

Cover Photo:
The global Mennonite-Anabaptist family is diverse.

Photo: Jonathan Charles

Courier Correo Courier



Volume 31, Number 2

Courier/Correo/Courier is a publication of Mennonite World Conference. It is published twice a year, containing inspirational essays, study and teaching documents and feature-length articles. Each edition is published in English, Spanish and French.

César García Publisher
Kristina Toews Chief Communications Officer
Karla Braun Editor
Melody Morrisette Designer
Glenn Fretz Visual Identity Consultant
Sylvie Gudin French Translator
Marisa & Eunice Miller Spanish Translators

Courier/Correo/Courier is available on request. Send all correspondence to:
MWC, Calle 28A No. 16-41 Piso 2, Bogotá, Colombia.

Email: info@mw-cmm.org
Website: www.mw-cmm.org
Facebook: www.facebook.com/MennoniteWorldConference
Twitter: @mw-cmm
Instagram: @mw-cmm

Courier/Correo/Courier (ISSN 1041-4436) is published twice a year. See www.mw-cmm.org/courier for publication schedule history.

Mennonite World Conference,
Calle 28A No. 16-41 Piso 2, Bogotá, Colombia.
Publication Office: Courier, 50 Kent Avenue, Suite 206,
Kitchener, Ontario N2G 3R1 Canada
Publications mail agreement number: 43113014
Printed in Canada at Derksen Printers using vegetable-based inks on paper from a responsible sustainable forest program.

ありと厚い多様な機会のため

グローバル・アナバプテスト・プロジェクト、世界のMWCメンバーのデータ



エリザベス・ミラー

(グローバル・アナバプティズム研究所)

メ
ノナイト世界会議(MWC)に所属する24の教会団体を3年かけて調査した、グローバル・アナバプテスト・プロフィール(GAP)の結果は喜ばしいものだ。教会は成長し、福音は広められており、その主な担い手は南の途上地域である。この調査が明らかにしたものには、MWCが主にラテンアメリカ、アフリカ、アジアで成長している、といった既知の事柄もあるが、前例のない規模で行われたGAPではメノナイトのアイデンティティと実践について新たな統計データや情報が明らかとなり、今後も北の先進地域と南の途上地域の教会双方に役立つ分析を提供した。

GAPに参加した教会団体はすでに、調査結果から新しい手法や洞察を得て、その働きを豊かにしている。調査員のレイナルド・ヴァイエシヨ氏(ホンジュラスのアモール・ヴィヴィエンテ教会)は、「非常に価値のある情報が多いです。とりわけ教育の面でのわれわれのニーズを知るのに役立ちます」と話す。

エチオピアの調査員ティギスト・ゲラグレ氏(

メセレテ・クリストス教会)も同感だ。「文化的背景は大事ですが、アナバプテストのルーツもまたわれわれの文化に含まれます。それを教会に取り戻したいです。」

GAPはグローバル・アナバプティズム研究所の支援により行われ、現在MWCに加盟する教会のもっとも包括的な姿を教会指導者に提供する。5つの地域から24の教会団体が選ばれ、プロフィールに参加した。団体の指導者が調査員を任命し、各々の教会で調査を行った。

2013年、調査員らはGAPの責任者であるジョン・D・ロス氏(米国インディアナ州ゴーシェン大学)とコンラッド・カーネギー氏(米国ペンシルヴェニア州エリザベスタウン大学)とともに、調査方法を決定した。このグループによりアンケートの主要な部分が、MWCの「共有の確信」7カ条にそって作成され、統計や具体的な信仰および実践についての質問が付け加えられた。こうして作られたアンケートは英語から26の言語に翻訳され、比較と正確を期すため再度英訳してチェックされた。

調査員の活動は2013年に始まり、彼らは選ばれた各個教会に直接出向いてGAPを説明し、調査と面接を行った。教会が比較的近接し

GAP research associates, church leaders and GAP staff at 2015 consultation.

Photos courtesy of the Institute for the Study of Global Anabaptism.

「言語や文化が異なっても、言葉にはできない仕方で、文化をこえた一致を数字が伝えてくれるのです。」

GAPに参加した教会団体

- Argentina (Iglesia Evangélica Menonita Argentina) アルゼンチン
- Brazil (Aliança Evangélica Menonita) ブラジル
- Canada (Brethren in Christ General Conference) カナダ
- Canada (Evangelical Mennonite Conference) カナダ
- Colombia (Iglesias Hermanos Menonitas de Colombia) コロンビア
- Congo (Communauté Mennonite au Congo) コンゴ民主共和国
- Congo (Communauté des Églises de Frères Mennonites au Congo) コンゴ民主共和国
- Ethiopia (Meserete Kristos Church) エチオピア
- Germany (Arbeitsgemeinschaft Mennonitischer Brüdergemeinden) ドイツ
- Germany (Arbeitsgemeinschaft Mennonitischer Gemeinden in Deutschland) ドイツ
- Guatemala (Iglesia Evangélica Menonita de Guatemala) グアテマラ
- Honduras (Organización Cristiana Amor Viviente) ホンジュラス
- India (Bihar Mennonite Mandli) インド
- India (Conference of the MB Churches in India) インド
- Indonesia (Gereja Injili di Tanah Jawa) インドネシア
- Malawi (BiC Mpingo Wa Abale Mwa Kristu) マラウイ
- Nicaragua (Convención de Iglesias Evangélicas Menonitas) ニカラグア
- Paraguay (Convención Evangélica Hermanos Menonitas Enlhet) パラグアイ
- Paraguay (Vereinigung der Mennoniten Brüder Gemeinden Paraguays) パラグアイ
- Philippines (The Integrated Mennonite Church of the Philippines) フィリピン
- South Africa (Grace Community Church) 南アフリカ共和国
- USA (Brethren in Christ General Board) アメリカ合衆国
- USA (U.S. Conference of Mennonite Brethren Churches) アメリカ合衆国
- Zimbabwe (BiC Ibandla Labazalwane kuKristu eZimbabwe) ジンバブエ

ていたり、教会と電子メールでやりとりできる団体もあったが、コンゴメノナイト共同体やコンゴメノナイト兄弟教会共同体のように、いくつも川を渡り、家を何日も空けなければならないところもあった。

調査員は2015年に再集合し、調査結果や経験を分かち合った。その間、カーネギー氏(他の教会員プロフィールを数多く手がけてきた)は調査に参加したすべての教会団体のデータをまとめて分析していた。その結果まとめられたプロフィールは、403教会の18,299人への調査に基づくものである。

カーネギー氏はいう。「GAPはたいへんな努力です。これを3年でやり遂げたことは、神の恵みと多くの人々の驚くべき努力のおかげです。」

MWCの加盟教会にはどんな人たちがいるか
GAPの結果は今年中にも公表される予定だが、世界中にある教会の重要な共通性と大きな違いを見てとることができる。全体としては、「先進地域(北米とヨーロッパ)」の教会と「途上地域(ラテンアメリカ、アフリカ、アジア)」の教会の違いの方が、教派に関わる違いよりも、より重要である。

- 調査に回答した人の平均年齢は46歳だが、地域によって相当の違いがある。欧米の教会員はアジア、アフリカ、ラテンアメリカの教会員に比べて平均して10歳ちかく高齢である。さらに、途上地域の教会員の54パーセントは18~45歳である。子育て世代に教会員が集中していることから、教会が将来さらに成長することが予想される。先進地域の子育て世代は34パーセントにとどまる。
- 世界全体で見て、GAP回答者は男性と女性が半々だった。ラテンアメリカとヨーロッパでは女性がより多く、アフリカとアジアでは男性が多かった。ただしアフリカでは、女性の識字率が低いことが結果にかなり影響していると思われる。字が読めない教会員には調査員が便宜を図ったものの、女性がアンケートを完成させられないケースがしばしばだった。
- GAP回答者の62パーセントが農村部に住んでいる。しかし、地域による違いがここでも重要である。アジアでは90パーセント近く、アフリカでは回答者の3分の2近くが農村部に住む一方、ヨーロッパとラテンアメリカの回答者では都会に住む割合が大きい。
- 調査からはMWC加盟教会の間に教育の不均衡が顕著であること、それが世界の教会の間にある社会的・経済的不均衡を拡

GAPで得られたデータは悔い改めへの呼びかけである。それは同時に、福音がそれぞれの文脈に異なった仕方で土着化することに目をみはり称えるよう招くものでもある。

大する要因であることがわかる。途上地域の教育レベルは、高校を卒業した教会員が46~58パーセントにとどまったままである。先進地域では、これが78~93パーセントに跳ね上がる。

- GAPに回答した人の平均的な回心の年齢は19歳である。平均年齢の最低は北米の14歳、最高はラテンアメリカの23歳である。回心年齢の違いは伝道活動によるものと考えられる。若い教会は教会の外から大人の会員を得るのに熱心な傾向があり、平均年齢が高くなる。古い教会は教会の中の子どもや青年の回心に頼る傾向が強くなり、平均年齢を押し下げるのである。「回心の平均年齢」を参照)
- 回答者の多くは、とくにラテンアメリカに顕著であるが、比較的最近キリスト教徒になった人たちである。ラテンアメリカの回答者の65パーセントは1991年以降に回心している。アフリカでは、54パーセントが過去25年以内にキリスト教徒になった。一方北米では、1991年以降に回心した人はたった22パーセントである。過去25年間で途上地域(とくにラテンアメリカとアフリカ)の教会団体が驚くほど成長したことが、これで説明できる。

彼らの信仰と実践はどのようなものか
信仰と実践(その多くはアナバプテストのキリスト教の核となる信条)はGAP回答者にとってほぼ普遍的といえる。たとえば、回答者の94パーセントが信仰に目覚めて生まれ変わることはとても重要だと答え、91パーセントがイエスこそ神に至る唯一の道であると答えている。同様に、回答者の多くが聖書を神の言葉であるとしている。

兵役に対する警戒も顕著である。回答者の76パーセントが、もし兵役を命じられれば、拒否



Top: Research associate and church members from BiC Ibandla Labazalwane kuKristu eZimbabwe travel together for GAP.

Above: Research associates from Communauté des Églises des Frères Mennonites au Congo travel to visit congregations.

するか非戦闘分野の任務を選んでいる。良心的兵役拒否を選ぶという回答は、先進地域(61.9パーセント)でも途上地域(62パーセント)でも、ほぼ同じ割合であった。

しかし、調査では大きな違いも明らかになった。全体としては先進地域と途上地域の違いが大きい。たとえば、これらの教会団体同士を束ねて活発な関係づくりを手がけているメノナイト世界会議を知っているかという問いに対しては、地域により教派により違いがあった。途上地域では55パーセントが知っているのと答えたのに対し、先進地域では75パーセントが知っていると同答した。教派では、キリスト兄弟団(BIC)の66パーセント、メノナイトブレザレンの76パーセント、メノナイトの46パーセントが知っていると同答した。

さらに深く掘り下げると、共有されているはずの信仰と実践にも違いが影を落としている。たとえば、回答者の多くが聖書を神の言葉であると答えているが、アジア、アフリカ、ラテンアメリカの回答者の55パーセントが、加えて聖書は字義どおりに解釈されるべきだとしている。これと同じ見解の欧米の回答者は20パーセントにすぎない(先進地域の回答者の74パーセントは「聖書は

回心した年の平均(地域別)

北米 1975年
ヨーロッパ 1982年
アジア 1984年
アフリカ 1991年
ラテンアメリカ 1995年

回心した年齢の平均(地域別)

北米 13.6歳
ヨーロッパ 17.3歳
アジア 16.3歳
アフリカ 20.7歳
ラテンアメリカ 23.2歳



Women from Communauté des Églises des Frères Mennonites au Congo fill out the GAP survey.

文脈により解釈されるべき」を支持した)。さらに、地域によって聖書の特定の箇所をより強く強調することもわかった。欧米では新約聖書がもっとも意味があると考えられているのに対し、アジア、アフリカ、ラテンアメリカでは28パーセントにとどまる。途上地域の回答者はむしろ旧新約両方の聖書に意味があるとする傾向が強い。

途上地域の回答者には、カリスマ的な賜物への傾倒も強い。アフリカ、アジア、ラテンアメリカの84パーセントに預言や異言、奇跡的な癒し、悪霊払いの経験があり、欧米では31パーセントである。

先進地域と途上地域は、しかし、均質な分類というわけではなく、地域による違いもまた重要である。たとえば、アフリカとアジアでは悪霊からの解放を経験したという割合がもっとも高いが、ラテンアメリカでは56パーセントが怪我や病気が奇跡的に癒されたと答えている。

個人伝道は初期再洗礼派に非常に特徴的だが、これも違いがある。アフリカの回答者の51パーセントは、自分の家族や教会以外の人に少なくとも週に一回は自分の信仰について話しているが、ヨーロッパでは13パーセントである。アジアの33パーセント、ラテンアメリカの26パーセントが信者ではない友人を毎週教会に誘うが、北米ではわずか9パーセントである。

GAPが示唆するのは、個人伝道は途上地域では多くの人の日常的な実践になっているが、先進地域の人には比較的珍しい行いになっているということである。



Members of the Bihar Mennonite Mandli Etkey congregation fill out the survey in India.

データが私たちに告げるもの
こうした違いはどう説明できるだろう。私たちはみな同じ聖書を読んでいるのに、それを違って解釈し、ある箇所の意義にも違った重みを与える。私たちの間に聖霊がおられると誰もが言うが、その同じ霊の現れ方をまるで違って経験する。私たちはみな同じ平和教会の伝統に連なるが、兵役や警察活動は教会団体によって認められたり退けられたりする。私たちはみな福音を受けているが、みなが同じように伝道するわけではない。

GAPの結果に見られる違いについてこんな説明もかえてきた。たとえば、激しい内戦下において、ニカラグア福音メノナイト教会連合は兵役に強く反対する立場をとり、今も堅持している。マルコス・オロスコ氏は「このままでは教会の仲間同士で殺しあうことになる。それができないことは明らかだった」という。アフリカとアジアの調査員は、地域にある先祖崇拜の影響が、同様の実践を記した旧約聖書を彼らが重んじる背景だと答えた。

GAPは以下の25カ国語で実施された。

- アフリカーンス語(南アフリカ)
- アムハラ語(エチオピア)
- インドネシア語
- チェワ語(マラウイ)
- ショナ語(ジンバブエ)
- ドルゼ語(エチオピア)
- 英語
- エンルヘット語(パラグアイ)
- フランス語
- ドイツ語
- ヒンディー語(インド)
- ジャワ語(インドネシア)
- コンゴ語(コンゴ民主共和国)
- リンガラ語(コンゴ民主共和国)
- オロモ語(エチオピア)
- ポルトガル語(ブラジル)
- ロシア語
- 北ンデベレ語(ジンバブエ)
- スペイン語
- スワヒリ語(コンゴ民主共和国)
- タガログ語(フィリピン)
- テルグ語(インド)
- ルバ語(コンゴ民主共和国)
- トゥンプカ語(マラウイ)
- コサ語(南アフリカ)
- ヤオ語(マラウイ)

ただ、教会団体それぞれがおかれた特定の文脈だけでは、GAPのデータに見られる多くの重要な相違点が、なぜ先進地域と途上地域の違いに重なりあうのかを説明することはできない。

この違いが意味する社会経済的・政治的格差は、この世で破壊的なまでに大きいもので、それはときに教会の中に影を落とす。その意味で、GAPで得られたデータは悔い改めへの呼びかけである。それは同時に、福音がそれぞれの文脈に異なった仕方でも土着化することに目をみはり称えるよう招くものでもある。そしてなにより、これはメノナイト世界会議においてより一層の一致のためのユニークな機会である。

GAPに参加して一致の感覚を得られたことへの感謝を、調査員らはくり返した。フィリピン



土着化(インカルチュレーション)「宣教学において、福音が特定の文化に根差し、また文化がキリスト教の導入により変容するプロセスのこと。それによりキリスト教と文化が相互に価値を高める。」(U・E・ウモレン、ナイジェリア)

GAPの目的は

- グローバルなアナバプティズムの理解をさらに深めること
- 宣教や優先課題を導くための情報を提供すること
- メノナイト世界会議(MWC)で教会間の関係を強めること
- MWCの優先課題を明らかにすること
- 将来的な変化を計る上での基準値を定めること
- 将来、教会の実態調査ができるよう指導者を訓練すること

Alfonso Cabañas implements the GAP survey with the Convención Evangélica Hermanos Menonitas Enlhet (Paraguay).

統一メノナイト教会のレジーナ・モンデス氏はいう。「言語や文化が異なっても、言葉にはできない仕方で、文化をこえた一致を数字が伝えてくれるのです。」

マルコス・オロスコ氏も、GAPの目的6項目を一つにまとめてこういう。「私たちに必要なのは、世界の教会の兄弟姉妹の経験に学び、めいめいが強さと弱さをもっていることを知り、それを強めたり改善したりすることです。」



エリザベス・ミラー氏はグローバル・アナバプティズム研究所のプロジェクトおよび渉外マネジャー。米国インディアナ州ゴージェン在住。米国メノナイト教会所属。

世界的な交わりと、各地の美しい多様性の中、メノナイト世界会議(MWC)の「共有の確信」は、加盟教会においてどのように用いられているでしょうか。

本号の特集記事では、世界中の教会が証ししているアナバプテスト・メノナイトの信仰のかたちや流れを取り上げました。当コラムでは、さまざまな地域の教会指導者に、MWCの「共有の確信」がそれぞれの文脈でどんなかたちと意味をなしているか、それぞれの観点から語っていただきました。

本誌10～11ページは「共有の確信」の見開きポスターになっています。

メキシコ

私たちの宣教使命と「共有の確信」

世界的な信仰共同体として、私たちは国籍、人種、階級、性、言語の壁を乗り越えます。私たちは悪の力に妥協せずこの世に生きるよう努め、他者に仕えることで神の恵みを証し、被造物を守り、すべての人がイエスを救い主と知るように招きます。

MWC「共有の確信」第7条

by Carlos Martínez García

アナバプテスト／メノナイトのキリスト教徒である私たちの宣教は、私たちが認識して告白するアイデンティティと強く結びついている。(アルフレド・ニューフェルドの著書)『われらがともに信じること：アナバプテスト系教会の共有の確信の探求』が、私たちのアイデンティティと、主が私たちに委ねられた働きを、信仰共同体に伝えていくために何が重要なかをまとめているのはそういう理由からである。

メキシコでは、社会的、経済的、文化的な不正義が強まっている。暴力の犠牲者が毎日出ている。そんな状況でイエスを証しするには、自分が何者で、誰からどんな召命を受けているかが明確でなければならない。『われらがともに信じること』はこうした問いに明確に答えていると思う。とりわけ第7条にあるとおり、「世界的な信仰共同体として、私たちは国籍、人種、階級、性、言語の壁を乗り越えます。私たちは悪の力に妥協せずこの世に生きるよう努め、他者に仕えることで神の恵みを証しし、被造物を守り、すべての人がイエスを救い主と知るように招きます。」

メキシコの私の教会(メキシコ福音アナバプテスト・メノナイト教会会議、CIEAMM)では、各個教会と個々の信仰共同体とは、イエス・キリストのみ国の種であり実りであると信じている。この確信に則り、私たちはイエスが宣べ伝えた平和と正義と和解の福音を、包括的(総合的)に理解して実践したいと考えている。それゆえ、イエスは町や村を限なく巡り、み国の福音を宣べ伝えた

き、あらゆる病気と患いを癒されたのである(マタイ9:35)。

同様に、私たちはコミュニティや社会生活のそれぞれの領域で、まったき癒しをもたらす者とならなければならない。イエスと同様、私たちの宣教もまたこの世で具体的な形をとるべきなのだ。常日頃思い起こさせられるように、父がイエスをお遣わしになったとおり、イエスも私たちをお遣わしになる(ヨハネ20:21)。

CIEAMMでは、『われらがともに信じること』が述べるとおり、あらゆる各個教会が聖霊の力を受けていると考える。聖霊はキリストの霊であり、「憐れみ深い宣教」へと私たちを招き、また力を与える。イエス・キリストは、人々が痛み苦しむ状況を自分自身のものとして受けとめ、人々を憐れんだ。憐れみとは一時的に痛みを感じるのではなく、苦悩のうちにある人と一体となることであり、人々を深く傷つける痛みを和らげようと、奉仕の行いへと突き動かされることである。

「イエスは憐れみ深い方であり、苦しむ人々と深く一体となって行動を起こされた(マタイ9:36、同14:14、マルコ6:34、マタイ15:32-37、ルカ7:12-15)。私たちがイエスに従うというなら、私たちもまた憐れみ深くあるべきである。

CIEAMMでは、『われらがともに信じること』を紙の書籍と電子書籍とで準備し、加盟する各教会で様々な形で学んでいる。各章を用いて日曜学校の教材としたり、7つの各条文を説教のテーマにするとこともあり、グループ学習も推奨し

ている。『われらがともに信じること』を学びの手引きとして、新しい教会員全員に配布するのが私たちの目標である。

紙媒体にせよ電子媒体にせよ、アナバプテストのアイデンティティと宣教についてスペイン語で読める資料はごくわずかである。それゆえ『われらがともに信じること』は、私たちを含む世界的なアナバプテストならではの信仰をよくまとめたものとして、とりわけ低学歴で読書や系統だった勉強経験に乏しい教会員の学びに役立てられている。

CIEAMMのメンバーにとって、「あらゆる部族、言語、民族、国民の中から」(黙示録5:9)あがなわれた人々からなる、キリストを中心とした地球規模の信仰共同体に自分も属していると知ること、豊かな祝福である。このアイデンティティの原則を中心として、和解の共同体を建て上げて、イエス・キリストが教えた平和の福音を実践するのである。

CIEAMMに所属する教会共同体は、「神の言(ことば)を権威とし、イエスの模範に従う弟子を育み、聖霊に導かれて現実のものとする家族としての教会」をめざしている。

「イエスの模範に従って平和の福音を反映させ奉仕する」のが私たちの使命である。『われらがともに信じること』を聖書的・神学的基礎として、私たちはCIEAMMの使命と目的を告白する。CIEAMMの人々にとってこの文書は、メキシコの社会的、経済的、宗教的文脈でアナバプテストとして考え行動するための道具なのである。

カルロス・マルチネス・ガルシア氏はメキシコのジャーナリスト兼牧師。メキシコ福音アナバプテスト・メノナイト教会会議(CIEAMM)の議長を務める。

スイス

21世紀の問題への回答を聖書からいかに得られるか？

信仰共同体として、私たちは聖書を信仰と生活の規範として受け入れ、聖霊の導きにより、イエス・キリストの光に照らして聖書を解釈し、私たちの従順を求める神の御旨を見極めます。

MWC「共有の確信」第4条

by Emanuel Neufeld

21世紀の問題への回答を聖書からいかに得られるか？

これはたいへんな難問である！

聖書のメッセージには、とても明瞭でいつの時代にも当てはまるものもある。しかし、この世の劇的な変化のため、21世紀の問題には再解釈しないと答えられないものもある。だが、従来の信仰を堅持すべきか、新しい洞察や方向に道を開くべきか、いかに判断したらいいのだろうか。

私たちの地元の教会では、2010年から2012年にかけて、性と結婚の問題、とくに婚前交渉をめぐる問題について、この問いに答えようとした。道徳的問題はこれだけではないし、これが最重要の問題なのではもちろんない。しかし、これは(直接ではなくとも)あらゆる世代に関わる問題であり、ひいては(教会という)家族全体に関わる問題である。

そのつど私たちは聖書から始め、これを「信仰と生活の規範として受け入れ、聖霊の導きにより」とともに解釈する。

ともに聖書を学ぶ

とても多様な意見や態度があるだろうことはわかっていた。では、各自がしたいようにすればいいのだろうか。それとも聖書から何らかの方向性が得られるだろうか。年配世代には、このプロセスを通して若い世代に正しい教えが明確に示されることを期待する人もいた。一方、かつて教会から厳しい戒告を受けたり、その仲間だったいわゆる「前歴のある子」たちなど、同様のことがくり返されはしないかと心配する人もいた。だから話し合いは慎重に慎重を重ねて進めなければならなかった。

幸い、世代を異にする100人もの人々がこの話し合いのプロセスに参加し、聖霊の導きに信頼して歩みをともにしてくれたのである。

話し合いは次のような段階をふんだ。

1. まず聖書研究を個人および小グループで行った。ティム・ゲッター(フレズノ・バプティック大学新約学教授)の『オール・ライト・ナウ』にある「神は聖書を通して語る：人にはなぜこうも違って聞こえるのか」の章が役立った。
2. 最初の晩、私たちは期待と不安、変わりゆく文化、聖書解釈について語り、話し合いの計画を説明した。最終的な目標は、話し合いを通して、拘束力をもたせる事柄と個々人の自由に任せる事柄をとむに見極めることであった。
3. その後、二夜にわたって、外部から講師を招き、性と結婚について聖書の教えと、それが私たちの生き方に意味するものを理解する助けを得た。そして、セクシュアリティは、限定的で安定した一致に特徴づけられる、生涯にわたる愛の関係に基礎づけられるべきとの結論を得た。
4. 第4夜は話し合いのハイライトであり、これまでの意見交換から私たちの立ち位置を見極めるときであった。私たちは何を大切にしているか。セクシュアリティと結婚について、どの側面が個人の解釈に任せられ、どの側面が(ただのプライベートでなく)共同体で明確にされるべきか。

それを明らかにしようと、私たちは床に線を1本ひき、各自が自分の立場に従って線上に立つようにした。意見を異にする人に向き合うのか、それとも背を向けるのか、身振りが明瞭に物語っていた。参加者にはそこに立った理由を短く述べてもらった。意見の違いにも関わらず、ほとんどの参加者は背を向けなかった。

意見の隔たりは大きかった。しかし私たちはみ

な、壁にかかった十字架のもとにいることに気づいた。

違いにも関わらず一つにされる

その後、重要な気づきを記録して、長老や説教者らと議論を重ねた。彼らはすべてのことに同意するわけではなかったが、これを会衆に示して話し合うことについては一致していた。

大多数が同意し、この文書をガイドラインとして受け入れた。文書は教義についてのものではない。「愛し合うカップルにどこまでゆるされるか」という問いに直ちに答える答えなどない。文書はむしろ、一教会として私たちが歩んだプロセスで得られた気づきを示すものである。

他の教会の指導者がこの文書をほしと言ってくることがあるが、私たちは安易に分ち合うことを差し控えている。プロセスが非常に重要だからである。各々の教会がこのプロセスをふむべきである。プロセス抜きに他の教会の結果だけ採用しても役に立たないだろう。

振り返ると感謝すべきことも多いが、つらい経験についても沈黙したくないと思う。このようにして教会生活を変えていくことは困難だった。私たちは、言葉にしていることを生き方で示すことができなかった。人々は傷つき、対立は今も残っている。生活の明るい側面を語る方が、暗い側面を語るよりも簡単だから、と謙遜にならざるを得ない。だが、どちらの側面も私たちの教会の共同の経験であり歩みであるには違いない。「共有の確信」は「神の恵みにより」という言葉で始まるが、私たちはシャロームという大きな目標を見据えて前に進むのである。

この過去の経験をふまえて、いま私たちはお金、富、献金という新たな難題に取り組んでいる。いずれ他の倫理的問題もきつと突きつけられるだろう。そのつど私たちは聖書から始め、これを「信仰と生活の規範として受け入れ、聖霊の導きにより」とともに解釈する。

こうして私たちは生涯を通して学び続け、手間のかからない答えに飛びつくことなく、ともに答えを探り続けるのである。



エマヌエル・ニューフェルド氏は、スイス、ムッテン在住。シェンツリ福音メソッド教会牧師。

共有の確信

世界のアナバプテストによる



神の恵みにより、私たちはイエス・キリストにある和解の福音を生き、また告げ知らせるよう努めます。いつ、どこにおいてもキリストの一つのからだとして、私たちは以下のことを信仰と生活の中心とします。

1 神は父、子、聖霊として私たちに知られ、罪におちた人間を回復するために、一つの民として忠実に交わり、礼拝、奉仕、証しをするよう召される創造主です。

2 イエスは神のひとり子です。その生涯と教え、十字架と復活を通して、私たちが忠実な弟子となる道を示し、この世を贖い、永遠の命をくださいます。

3 教会は、罪から立ち返り、イエス・キリストを主と仰ぎ、信仰を告白して洗礼を受け、キリストに従う生き方をしよう、神の霊に召された人々の共同体です。

4 信仰共同体として、私たちは聖書を信仰と生活の規範として受け入れ、聖霊の導きにより、イエス・キリストの光に照らして聖書を解釈し、私たちの従順を求める神の御旨を見極めます。

5 イエスの霊は、私たちが生活のあらゆる場面で神に信頼する力を与え、私たちが平和をつくる者となり、暴力を放棄し、敵を愛し、正義を追い求め、貧しい人々と持ちものを分かち合えるようにしてください。

6 私たちは互いに責任を担いあう心をもって定期的に集まり、礼拝し、主の晩餐を祝い、神のことばを聞きます。

7 世界的な信仰共同体として、私たちは国籍、人種、階級、性、言語の壁を乗り越えます。私たちは悪の力に妥協せずこの世に生きるよう努め、他者に仕えることで神の恵みを証しし、被造物を守り、すべての人がイエスを救い主と知るよう招きます。

私たちはこれらの確信のうちに、イエス・キリストに徹底的に従う弟子の道の模範を示した、16世紀のアナバプテストの先駆者たちの遺産をうけつぎます。私たちは聖霊の力によりイエスの名を通して歩み、キリストの再臨と神の国の成就を確信して待ち望みます。



**Mennonite
World Conference**
A Community of Anabaptist
related Churches

**Congreso
Mundial Menonita**
Una Comunidad de
Iglesias Anabautistas

**Conférence
Mennonite Mondiale**
Une Communauté
d'Eglises Anabaptistes

インドネシア セマランにおける総合的なケア

世界的な信仰共同体として、私たちは国籍、人種、階級、性、言語の壁を乗り越えます。私たちは悪の力に妥協せずこの世に生きるよう努め、他者に仕えることで神の恵みを証しし、被造物を守り、すべての人がイエスを救い主と知るよう招きます。

MWC「共有の確信」第7条

by Lydia C. Adi

世 界最大のムスリム人口を抱えるインドネシアで、メノナイト教会は宗教や階級の違いをこえた総合的なケアにより、地元の政府機関や宗教組織の支援を受けつつ、コミュニティのニーズに応じている。

教会は神の愛と恵みを証しするため、ムスリムをはじめさまざまな宗教の信者を受け入れている。インドネシアキリスト教連合(JKI)神の国の福音教会のビクトル・ブルノモ牧師は、「彼らは敵ではなく、私たちと同様、神の愛と助けを必要とする人々です。憎しみや怒りの壁をなくせば、教会はこの町の必要に創意工夫して応えることができ、ひいては人々の心に届くことができるのです」という。

神の国の福音教会のように、教会は地元市民との良好な関係に立って働いている。社会でもっとも助けを必要としているところに手を差し伸べると、人々のオープンで前向きな応答がすぐ得られることがわかるのだ。

総合的なケア

教会の総合的なケアの一つは、教会が運営する「国民の光学園」(小中高校)を通じて子どもに教育支援をすることである。この働きは多くの親たちに受け入れられており、「子どもたちを大切にできれば、自分の子どもを慈しみ価値を認めもらった親はとてもうれいでしょう」とビクトル牧師はいう。

また、災害復興などの社会活動を通じて、近隣の人々に手をさしのべることもある。ビクトル牧師は「教会は、町のニーズにもっとも敏感でなければなりません。ニーズに答えを提供するので、火災があれば、私たちが真っ先に食料を提供します。人々は本当に助かります。何もかも失った人には、教会が応えるのです」という。

政府との関係も作られる。利用可能な施設を求めて協力を依頼されるためである。最近の洪水被害では、教会はボートに食料と日用品を満載して、ボランティアとともに送り込んだ。人々は宗教に関係なく「教会はすごい。同じ宗教でもこ



フォトVJKI神の福音教会のメンバー

Jemaat Kristen Indonesia Injil Kerajaan churches share God's love in outdoor markets in Indonesian cities.

までしてはくれないのに、教会は真っ先に助けしてくれる」と話した。
癒しの祈り

社会活動は野外市場でも行われる。米、野菜、食用油、衣類、日用品などが安く売られる市場に出かけていき、福音を宣べ伝え、癒しの祈りをするのである。

これは信者獲得を目的とするよりも、むしろ神の価値観を広めることに眼目がある。活動に参加する教会員は、啓発的な世俗の歌を交えつつ、キリストとは明言しないキリスト教の歌を歌う。病人のための祈りの時間があり、そこで人々は主イエスによって癒されたことを知る。癒しを必要とする人は、自分が癒される限り、それが誰による癒しかを気にしたりはしない。何千もの人が、市場での活動を通じてキリストを信じるようになったのである。

教会は、ラマダン(イスラムの断食月)中の夕食配布などの社会活動もオープンに支援している。ペルマタ・ヒジャウ(セマランのグリーン・ダイヤモンド地区)の教会は、毎年この4週間に毎日1,000人余りに給食し、人々が集まってゲーム大会や聖書の物語を聞けるよう、会堂を開放している。病気の癒しや奇跡が人々をキリストに導く。働きの成果をみて、献金や自らの仕事を生かした協力を申し出る支援者もいる。

尊重と評判

ボンドク・ベサントレン(イスラムの寄宿学校)では、教会のボランティアが頭を覆って、信仰の隣人に敬意を払っている。イスラムの人々も私たちと同様、ビジョン、愛、ゆるしなどの価値を大切に

している。

かわりに、寄宿学校は教会のクリスマス集會に参加させてほしいと頼んでくる。彼らはイスラムの伝統に従って祈ってから、クリスマスプログラムに参加するのである。生徒たちは、キリスト教徒の友人はいい人たちだ、自分にキリスト教を押しつけず、むしろよい価値観を示してくれるので学ぶことができる、という。これが彼らに強い印象を残す。教会で行われる行事に参加する人に対しては、私たちは思う存分イエスについて証しする。

警察官だって教会を支えてくれている。セマランの教会が宗教過激派に脅かされたとき、真っ先に教会指導者に連絡して応援をよこしてくれたのは警察だった。JKIの教会が「人々をキリスト教化している」と非難されたとき、教会は自分たちは社会の貧困に取り組んでいると応え、平和的な意思疎通をするよう努めた。教会は信仰を押しつけてはいないと言ってくれる人も現れた。それで警察も、教会を守ってくれたのだ。

教会と他の団体との強いネットワークと絆がとても重要である。

教会は、キリスト教コミュニティの中で奉仕するだけの組織にとどまっていなければならない。教会の可能性は、町の人々とのかけはしとなり、総合的な奉仕を通してキリストを知ってもらうことにある。大宣教命令(マタイ28:18-20)とは、すべての国の人々に福音を宣べ伝えることを、もっとも重要な掟(マタイ22:35-40)つまり神と隣人を愛しつつ行うことである。どの掟がいちばん重要かを議論するのではなく、それらが手を取り合って歩めるようにすることが求められているのである。



リディア・C・アディ氏は、インドネシア・キリスト教会連合会議の渉外代表。異文化学修士(米国フラー神学校)および英語教育学修士(米国バイオラ大学)。夫のアントン・K・シダクタ氏(ウングランのJKIマラナタ牧師)とともにJKI青年ネットワークを設立、教会内外の関係づくりに取り組む。息子のカレブとともにインドネシアのウングラン在住。

ジンバブエ

三位一体とシャロームの歌

イエスの霊は、私たちが生活のあらゆる場面で神に信頼する力を与え、私たちが平和をつくる者となり、暴力を放棄し、敵を愛し、正義を追い求め、貧しい人々と持ちものを分かち合えるようにしてくださいませ。

MWC「共有の確信」第5条

されている。

まず、地域社会や国家レベルで戦争や紛争がないという側面である。そうした状態をジンバブエは享受してきた。

故スティープン・ンドロヴは、1980年代にマタベレランドの治安が悪化したとき、兄弟団の指導者だった。彼は他の指導者を伴ってジョシュア・ンコモとロバート・ムガベに会い、反政府勢力とジンバブエ軍の武力衝突を休止させた。(この物語はウェンディ・アーバン＝ミード『ジェンダー・オブ・パイエティ』に記録されている。)

教会指導者は特定の勢力に肩入れせず、主のシャロームを求めて声をあげたのである。

マドレラは個人レベルでシャロームを表した。彼女は自宅の火災から奇跡的に逃れたのである。警察に捕らえられた放火犯に、「あなたに何も悪いことをしていないのに、なぜ私を殺そうとするのです。私はあなたに何の憎しみももちません。ただ主があなたの心に触れて、あなたが主の救いの力に近づくのを祈るだけです。」と彼女は言った。

キリスト兄弟団の讃美歌は、三位一体の神への信仰をうたう。その確信を熱心にうたうのである。うたうことで、私たちはアナバプテストとして



Photo: Monica Figueroa

A choir from Zimbabwe raises praises on the Global Church Village stage at Pennsylvania 2015.

もに信じていることを確かにし、イエスに従ってシャロームを表すことができるのである。ベキテンバ・デュープはムシャベツイ・ミッションのエクソダス聖書学院講師。ムシャベツイ・ミッションは、ジンバブエにおけるキリスト兄弟団で最大の宣教拠点の一つ。デュープ氏は教師、政府教育大学講師、ジンバブエ兄弟団のHIV/AIDSプログラムコーディネーターを歴任。教団の説教通訳(英語、ンデベレ語)も長年つとめる。妻とミッション・スクール教師の息子がいる。

by Bekitemba Dube



ジンバブエ・キリスト兄弟団(BIC)は、世界的なアナバプテストの家族と、その信条と実践を共有している。

私たちの信条、思想、神学は、私たちが歌う歌によく表れている。都会でも地方でも、ほとんどの礼拝で歌われるのが、ズールー語の讃美歌集『アマガマ・オクフラベラ』の75番「イエスは愛に満ちた友」である。

2016年5月と6月に行われた簡単な調査によると、この歌は各地区会議で選ばれるだけでなく、多くの礼拝でも歌われていることがわかった。葬儀の前夜式で歌われることもある。私たちのイエスに対する信仰を表す歌なのだ。

この歌に表されるイエスの性質は、神へと直接つながる。

他の友人とは異なり、イエスは私たちに失望させず、真の助けとなる。イエスは再臨して自身の友を選ばれる。

イエスは決して失望させない。その確かな愛のゆえに、再び来られて自身の友を選ばれる。

求める者はイエスのもとへと招かれ、イエスは彼らを罪から隔てられる。

最後の節は、約束された勝利とともにイエスの愛のうちに歩むよう信徒に呼びかける。

ズールー語の讃美歌第4番もキリスト兄弟団の教会でよく用いられる。この歌は私たちが信じる神について歌うものである。

私たちはシャロームを信じる
私たちが世界のアナバプテストの家族と共有してきたアイデンティティの一つは、シャロームへの信仰である。この信仰はさまざまなレベルで表

Zulu Woza Thixo Wethu

Woza Thixo wethu
Onga mandla ethu usisize;
Baba obusayo
Wena onqobayo,
Wena osizayo,
Usibheke.

JesuMbusu wethu
Nqobizithazethu,
Uzahlule;
Vez' amandla akho
Ukuhleng' abakho
Inhliziyo yabo
Ime kuwe.

Moya oyingcwele
Woza usihole,
Sibusise;
Uzihlanzisise
'Zinhliziyo zethu;
Ube phezu kwethu
Silungise.

Nkulunkulu wedwa,
Abathathu 'Munye,
Mananjalo!
Ubukhosi bonke
Naw' amandla onke,
Nal' udumolonke,
Kungo kwakho.

English Come to us

われらの力なる神、来りたまえ
来りてわれらを助けたまえ
われらの支配者なる父よ、
あなたは支配される方
あなたはわれらの助け手
われらに目を留めたまえ

われらの主なるイエス、敵を敗りたまえ
敵を退け、み力を示したまえ
贖いはすべてあなたにより
ころはあなたに堅く立つ

聖霊よ、来たりてわれらを導きたまえ
きたりてわれらを祝福したまえ
われらの心を清めたまえ
われらに下りたまえ
われらを義となさしたまえ

三つにして一つの神
とこしえに堅く立ちたまえ
み国とみ力と
み栄えはあなたのもの

カナダ 時代の変化にあってイエスに集中を

イエスは神のひとり子です。その生涯と教え、十字架と復活を通して、私たちが忠実な弟子となる道を示し、この世を贖い、永遠の命をくださいます。

—MWC「共有の確信」第2条

by Palmer Becker

北米の教会は急激な変化を経験している。その変化は16世紀の宗教改革にも匹敵する大きさだという声も多い。伝統的な信仰理解には疑問符がつけられている。かつての枠組みはもはや機能しない。新しい教会のかたちができつつある。

変化の時代にこそ、基礎的な確信が新しい方向に進む勇気、安定性、土台を提供する。世界のアナバプテストの「共有の確信」7項目は、そんな基礎を提供してくれる。

イエスは主である

私たちの教会の間で新たに強調され、新たな教会改革の中心とも思われるのが、イエスが主であるとの確信である。かつてアナバプテストの先人たちが、何世紀にもわたって秘跡と儀式に覆い隠されてきたイエスの生き生きとした姿を再発見したように、こんにちイエスの生き方に日々従うことがますます強調されている。イエスが主であることは、イエスが救い主であることよりも強調されるくらいである。まさに、イエス以外の主に従うことからこそ、私たちは救われねばならないのだ。

「共有の確信」第2条にある「イエスは神のひとり子です」という言葉は、とりわけ私のムスリムの友人に、しばしば誤解される。私が住むカナダの町ではおよそ13,000人がイスラム教徒である。彼らは「神の子」を神との関係の近しさよりも、血のつながりと考えがちだ。私はむしろ「イエスはメシアであり、神を理解する最良の方法だ」というようにしている。ムスリムの友人は、神の霊に満たされた人間として、イエスを理解し尊重してくれる。こうして、イエス・キリストを通して明らかにされる神の育みと励ましを、いかに自分の生活に取り入れていくか、話し合うことができるようになる。

イエスは平和である

北米で私たちの間には多くの分裂や意見の不一致があり、それらは聖書解釈の違いにより生じているといえる。聖書をかなり字義どおりかつ均一に捉えようとする信徒や教会もある。旧約聖書や書簡の教えを、イエスの教えと同等に受

け入れようとしがちだ。「共有の確信」第4条は、むしろイエス・キリストの光に照らして聖書を解釈することをすすめており有益だ。

非常に残念なのは、アメリカの銃文化とそれがもたらす暴力である。平和づくりと正義と分かち合いを強調する「共有の確信」第5条は、引き続き強調されなければならない。ベトナム戦争の頃、ジェネラル・カンファレンス・メノナイト教会(アメリカ)西部地区では、17歳の若者全員を対象に徴兵前の訓練合宿を行った。そこで紛争の原因や平和についての聖書の教えの基本をしっかり教えたところ、参加者のほとんどが代替奉仕を選んだのである。

平和の道を互いに教え合い若者にも教える、こんにちに合った新しい創造的な方法が必要である。

イエスは教師である

北米において、そしておそらく世界中でも、問われている問題に「いかにしてわれわれ独自のアナバプテスト的なキリスト教信仰理解を強めつつ、他のキリスト教派との一致を重んじればいいのか。いかにして、他教派のキリスト教徒や他宗教の信徒と競ったり批判したりせずに、自らの信仰を強めていけるか」というものがある。

MWCの「共有の確信」とならんで、私たちの信仰の中核を簡潔に3つにまとめたものがある。「イエスが私たちの信仰の中心である」「教会共同体が私たちの生活の中心である」「和解が私たちの働きを中心である」というものだ。

アナバプテスト運動と初代教会が重んじたこれら3つの価値は、メノナイト・ミッション・ネットワークが2008年に刊行した冊子『アナバプテストのクリスチャンとは何か』によって改めて注目され、冊子は20か国語以上に翻訳されている。

米国メノナイト教会は3つの価値を長期事業計画の基礎として用いている。教会案内に取り入れて自らのアイデンティティを明らかにしている教会は数えきれない。これらをテーマとした説教を行う牧師や、キリスト教入門の学習に役立てているグループもある。

フィリピンのピースビルダーズ・コミュニティの

ダン・パントーヤ氏は「これを私たちの世界観として採用した」といい、タイのワークショップでは参加者が「メノナイトのキリスト教徒とはこういう意味だとやっとわかった」といった。

「共有の確信」にせよ3つの価値にせよ、これで完全な真理が得られたわけではないこと

こんにちイエスの生き方に
日々従うことがますます強
調されている。

を知るべきだと私は思う。私たちは互いに学び合わなければならない。ともに理解を深めることで、私たちはみな強くなれる。

世界のアナバプテストによる「共有の確信」は、私たちが信じることを明言している。これらの信条は神に対する、互いに対する、地球全体に対する、私たちの思いをはっきりさせるのに役立つ。翻ってその思いは、私たちの行動を導く。

初代教会や初期アナバプテストのキリスト教徒は、迫害と死にもかかわらず、自らの信仰を勇気をもって生きた。その確信が私たちが愛と勇気で満たし、変動するこの時代にイエスに従って生きることができるように祈る。



パーマー・ベッカー氏は牧師、開拓伝道者、宣教師、教会団体役員、教育者を歴任。著書に『アナバプテストのクリスチャンとは何か』、『アナバプテストの精髓:ユニークなキリスト教信仰の10項目』(近刊)がある。妻アーディスさんとオンタリオ州キッチンナー(カナダ)在住。4人の成人した子がいる。

喜ばしき希望と信仰

東アフリカのメノナイト教会

カーラ・ブラウン(MWC編集長)

ア

フリカの宗教伝統では、信仰が普遍的な形で表されることは決してありませんでした。信仰と実践は地域性によって、また民族によ

ってさまざまでした。宗教表現はつねにルオ族の、マサイ族の、トゥルカナ族の、あるいはザナキ族のそれとして理解されたのです」と、『アナパブテストの歌、アフリカの心』(グローバル・メノナイト歴史シリーズ)でアレム・チェコレ(サムエル・アセファ補筆)は書いている。

「しかし、アフリカのクリスチャンがキリスト教を受け入れたのは、そこに新しい生き方が見つかったから、それも伝統的なあり方よりもずっとよいものがあったからです。たとえば、永遠の命への希望や、罪が赦されるという確信、神と人との平和と和解によって保証される平安などです。キリストの血によって判を押された新しい契約が、新しい普遍的な信仰共同体へと人々をまとめあげたのです。」

1930年代、(当時はタンガニーカとよばれた)タンザニアに開拓伝道に入った最初のメノナイトの宣教師は、エラム&エリザベス・ストーファー夫妻、ジョン&ルース・モーズマン夫妻らであった。ゼデキア・キサレという若いアフリカ人キリスト教徒が、日曜礼拝で通訳を務めた。

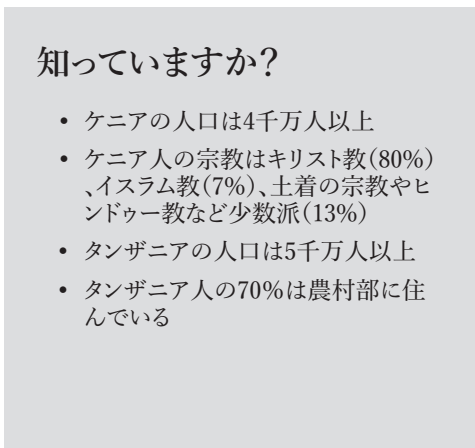
ブキロバ、ムガンゴ、ブマンギ、ニヤバシの各地域に宣教の拠点が設けられた。

各宣教拠点では福音を伝え教会を始めるだけでなく、学校、病院、診療所なども設けられ、宣教師らは女子寮も開設した。

1942年にはリバイバルが始まった。アフリカ人の伝道師によって、地域全体がリバイバルに席卷された。「概して、東アフリカのリバイバルはあらゆる立場の人々に影響しました。それは宣教師とアフリカ人を一致させ、二つの人種間に共感と理解を生んだのです」と、チェコレとアセファは書いている。

しかし、東アフリカの国々が植民地支配から独立へと移行するにつれ、宣教師もまたアフリカ人にリーダーシップを移行させていった。

1948年、タンザニアのメノナイト宣教師らが話し合っ、自立したアフリカ・メノナイト教会を設立し、監督・牧師・執事という三つの役職によ



知っていますか？

- ・ケニアの人口は4千万人以上
- ・ケニア人の宗教はキリスト教(80%)、イスラム教(7%)、土着の宗教やヒンドゥー教など少数派(13%)
- ・タンザニアの人口は5千万人以上
- ・タンザニア人の70%は農村部に住んでいる

て組織を作ることにした。

1950年には、15年以上信徒説教者として奉仕した男性は按手礼を受け、洗礼式、聖餐式、結婚式を行う権限が与えられた。按手礼を受けて牧師となったのは、エゼキエル・ムガンダ、アンドレア・マベバ、ゼデキア・キサレ、ナシオン・カウイラであった。

「聖霊において一つという感覚、仲間のうち

The choir of Eastleigh Mennonite Church from Kenya in 2015 at Assembly 16 in Harrisburg, Pennsylvania, USA (above), and at the MWC General Council meetings in 1981 (inset).

から牧師を見出すことの喜びと感謝が、伝道のわざに対する関心を刺激した」と、チェコレとアセファは書いている。行く先々で多くの困難に直面しても、伝道師らの働きは回心者という果実を生み出した。

1961年にタンザニアが独立を果たすと、教会指導者らはナショナリズムの問題に直面せざるを得なくなった。教会では、若者にリーダーシップの責任の大切さを教え込むことが重要とされた。ダニエル・マトカとシエマヤ・マガティの指導でタンガニーカ・メノナイト教会青年部が結成され、教会の清掃、献金の受け取り、日曜学校の援助、歌や庭仕事の奉仕などの活動を行った。

1964年、タンザニア・メノナイト教会は最初の監督として、ルオ族のゼデキア・キサレを選出した。バントゥー族からの不満が噴出するかに見えたが、監督候補だったエゼキエル・ムガンダは異議を唱えるよりも穏便な解決を選び、キサレは1967年、ちょうど政府が社会主義の建設を宣言

した年に按手札を受けた。

ケニアとタンザニアの国境は、民族をも分断するものである。1942年、オグワダ・オカチュとニコノル・ダーイエは、国境を越えてケニアに福音を伝えようと決心した。二人はタンザニア出身の最初のメノナイト伝道師として、バンデヤニヤングワイエなどケニア各地で証しし、キリスト教徒のグループを育成した。ケニアのメノナイト教会は当初から「地方の貧しい人々の草の根運動であった」と、フィリップ・E・オケヨは『信仰による

ケニアのメノナイト系教会団体

ケニア・キリスト兄弟団会議	
会員数	4,900
教会数	25
本部	ナクル
代表者	サムエル・ムリイティ(監督)

キリスト教信徒連合(ピーチー・アーミシュ)	
会員数	693
教会数	16
本部	キスム
代表者	マーリン・ストルツフス (主任監督)

キリスト教会インターナショナル	
会員数	19,640
教会数	320
本部	マダラカ、ティカ、セントラル
代表者	ジョセフ・ムブル・カミリ (監督)

チャーチ・オブ・ゴッド・イン・クライスト、メノナイト	
会員数	139
教会数	9

*ケニア・メノナイト教会	
会員数	11,800
教会数	142
本部	ナンゴ
代表者	フィリップ・E・オケヨ (監督議長)

タンザニアのメノナイト系教会団体

*タンザニア・メノナイト教会(KMT)	
会員数	65,456
教会数	400
本部	ムソマ
代表者	スティープン・ワトソン・ マンガアナ

*はMWC加盟教会団体

『MWC世界住所録 2015年版』による



Photo: Dave Kroeker, Mennonite Archives of Ontario

Frank Epp of the Canadian Mennonite interviews bishop Zedekiah Kisare at the 1967 Mennonite World Conference Assembly in the Netherlands.

前進:ケニア・メノナイト教会70年の歩み』で書いている。

ケニアは1963年に独立した。1965年、メノナイトは4度目の申請で教会として政府の認証を受けた。しかし、ケニアのメノナイト教会は、1977年にキサレ監督が独立の組織をケニアに作るまでは、タンザニアの教会の支部とされていた。

1980年には、ナイロビにイーストリー・フェロシップ・センターがオープンした。このコミュニティ・センターは図書室、教室、運動場が設けられ、「キリスト教の証しと存在をアピールし、さまざまな宗教間の対話と分かち合いの機会を提供し、健全なレクリエーションや低所得の家庭や学生を助け、生活の質を向上させる」ことを目的としたものだと、チェコレとアセファは書いている。ケニアのメノナイト教会は内部に紛争を抱えているものの、このセンターによって平和についての評判とムスリムとの良好な関係を得ている。

タンザニアでは、1978年の対ウガンダ戦争に際して、無抵抗というメノナイトの信仰が試された。軍隊に入って戦う教会員もいたが、クリストファー・ンデゲのように訴追も辞さず無抵抗の信仰に堅く立つものもいた。

この頃、教会は拡大にともなって、ヒゼキア・N・サリア牧師を第二の教区の監督として選出した。彼のもとでは地域と民族の間で緊張が高まった。チェコレとアセファによれば、「ある種の教会成長の伸び悩み」と「霊的な栄養失調」があったという。現在、新しい指導体制のもと、「タンザニア・メノナイト教会に平和と和解がもたらされるよう努めている」。

ケニアでは、苦難の増大にも関わらず「一民族の村から始まった教会が、いまやキクユ、ルヒャ、ミジケンダ、ナンディ、マサイ、ソマリなど他の

アフリカのメノナイト教会についてもっと知るために

- Anabaptist Songs in African Hearts, 3rd ed. Global Mennonite History Series 1. Lapp, John A. and C. Arnold Snyder, gen. eds. Kitchener, ON: Pandora Press, 2006.
- Forward in Faith: History of the Kenya Mennonite Church, A Seventy-Year Journey, 1942–2012. Ojwang, Francis S. ed. Nairobi: Kenya Mennonite Church, 2015.
- “Kanisa la Mennonite Tanzania.” Global Anabaptist Mennonite Encyclopedia Online. Stauffer, Elam W. and Mahlon M. Hess. 1987. Web. gameo.org
- “Kenya Mennonite Church.” Global Anabaptist Mennonite Encyclopedia Online. Hess, Mahlon M. 1987. Web. gameo.org

民族やウガンダまで行き渡っている」とオケヨは『信仰による前進』で書いている。

チェコレとアセファもいう。「福音はあらゆる文化を超越し、どんな文化遺産にも挑むものだ。イエス・キリストのすばらしいわざのゆえに、アフリカでは何百万ものキリスト教徒が喜ばしき希望と信仰を生きている。イエスを通して死の力は敗北した。イエスが主であるから、勝利は確実となった。福音は人間のすべてにとってよい知らせなのだ。」

Karla Braun is editor of Courier and writer for Mennonite World Conference. She lives in Winnipeg, Canada.

“My cry is heard”

Psalm 40:1–10, Genesis 11:1–9, Acts 2:1–18



MWC World Fellowship Sunday is your opportunity to help the people in your congregation become aware of what it means to belong to a global Anabaptist faith community. It is our annual celebration of worshipping in spirit with Anabaptist brothers and sisters around the world.

European member churches provided worship resource materials for January 2017: the prayers, songs, sermon ideas, stories and even recipes are a window into these Anabaptist churches today.

Encourage your congregation to celebrate World Fellowship Sunday with the global Anabaptist family in January.

mwc-cmm.org/wfs

Why Anabaptist?



Why am I an Anabaptist? While I live and worship in an interdenominational setting, I love the fact that Anabaptism challenges me to be a radical follower of Jesus Christ: to serve, not to be served; to seek reconciliation, not retaliation; to love; and to witness.
—Elizabeth Kunjam, India



I'm an Anabaptist because it is a Church committed to peacemaking, love and dialogue. And also because it is a church proud of its history, but that doesn't close itself with traditions because of its radical nature.
—Marc Pasqués, Spain

インドネシア2021:多様な人々による世代をこえた世界規模の催し



フェブリ・カヒア・キルスチアニ
インドネシア、サラティガ在住、キリスト教会会議 (JKI)所属

メノナイト世界会議(MWC)の2015年大会は「この世の楽園」のようでした。文化も言語も年齢も違う多くの人々が世界中から集まり、一つの歌声で神を礼拝し賛美したのです。

2021年の大会に、皆さんをわたしの国へお迎えするのがとても楽しみです。世界中にいる友人と再会するのが待ちきれません。新しい友人とお知り合いになるのもとても楽しみです。



アニタ・プルウィダニンジ
インドネシア、中部ジャワ州、デマク在住、ムリアキリスト教会連合(GKMI)所属

2015年のグローバル青年サミット(GYS)で代議員らの話を聞き、世界的な共同体の一員として何をささげることができるか、と考えました。本当に目と心を開かれる体験でした。世界は複雑だけど、私たちはつながっています。私たちは互いに祈りあい支えあうべきです。

インドネシア2021大会は熟年世代が集まるだけでなく、若い世代が信仰をともにする世界の家族と出会い、アナバプテスト的価値によって生きる強い共同体へと成長するためのものでもあります。何千もの多様な人々が集まる、世代をこえた世界規模の催しになるといいですね。

Renewal 2027: “Transformed by the Word: Reading the Bible in Anabaptist perspectives”



Renewal
Renovación
Renouveau

Sunday, 12 February 2017
9:30–16:30
Haus Sankt Ulrich, Kappelberg 1, 86159
Augsburg, Germany

Renewal 2027 is a 10-year series of events commemorating the 500th anniversary of the beginnings of the Anabaptist movement.

A day-long public conference on the theme “Transformed by the Word: Reading the Bible in Anabaptist perspectives” will launch the project on 12 February 2017

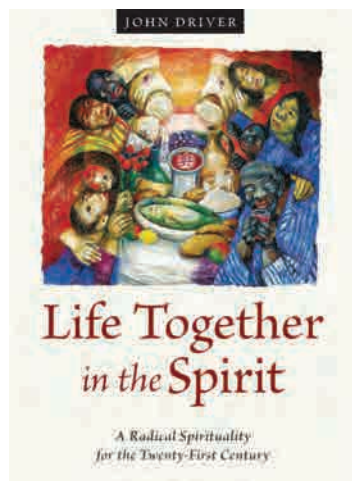
in Augsburg, Germany. The gathering, which occurs some 500 years after Luther's famous appeal to *sola scriptura* launched the Reformation, will explore how Anabaptist-Mennonites around the world have engaged Scripture in the past...and how Scripture continues to be relevant in our global community today.

Anabaptist-Mennonite speakers from five continents and several ecumenical guests will reflect on the theme, with opportunities for all participants to join in worship, singing and discussion. The gathering takes place in connection with meetings of the MWC Executive Committee and Commissions.

This is the first in a series of annual regional events that will culminate at MWC Assembly 18 in 2027.

For more information, go to mwc-cmm.org/renewal2027

図書の紹介

グローバル・アナバプテスト・メノ
ナイトの書棚シリーズ**Life Together in the Spirit:
A Radical Spirituality for the
Twenty-First Century****John Driver**Plough Publishing House,
USAジョン・ドライヴァー『霊にあって共に生
きる生活:21世紀のための急進的霊性』
米国ブラウ出版(英文・未邦訳)

ラテンアメリカで宣教師兼教授を務めたジョン・ドライヴァー氏は本書において、イエスの弟子と初代教会の霊性(スピリチュアリティ)があらゆる生活面にわたっていたことを示す。アナバプテストもイエス自身の模範に基づき、霊性は教会共同体の具体的な証しや、奉仕を通じてこの世でキリストの存在を具現しようとする人々の日常生活を通して明らかにされると信じる。

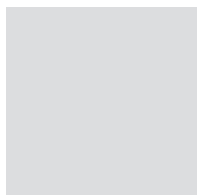
本書はドライヴァー氏がスペイン語で執筆した原書を英訳し、世界各地のアナバプテスト系教会指導者や研究者の応答を収録したものである。

米国ペンシルベニア州ハリスバーグで開かれた第16回大会において、本書はグローバル・アナバプテスト・メノナイトの書棚シリーズの最新刊として紹介された。

書棚シリーズは、MWC加盟教会が共通の信仰を育むのを助けるため、MWCが選定するものである。シリーズの一覧は mwc-cmm.org/literature にてみることができる。

**MWC's
Regional Representatives**

These part-time volunteers are responsible to develop and support relationships with MWC member, associate-member and potential-member churches, local congregations and MWC-related agencies and partners.

ASIANortheast Asia (Korea,
Japan, Taiwan, Hong
Kong)◀ **Kyong Jung Kim**
from South KoreaSouth Asia
(India, Nepal)◀ **Cynthia Peacock**
from IndiaSoutheast Asia
(Indonesia, Australia,
Myanmar, Philippines,
Vietnam)
Vacant**AFRICA**Central West Africa
(DRC, Angola, Burkina
Faso, Nigeria, Ghana)◀ **Francisca Ibanda**
from Democratic
Republic of CongoEast Africa
(Ethiopia,
Tanzania, Kenya)◀ **Tesfatsion Dallelle**
from EthiopiaSouthern Africa (South
Africa,
Mozambique, Malawi,
Zambia, Zimbabwe)◀ **Barbara Nkala** from
Zimbabwe**EUROPE**(France, Germany, Italy,
Netherlands, Spain, Swit-
zerland)◀ **Henk Stenvers**
from Netherlands**LATIN AMERICA**Central America (Belize,
Costa Rica,
El Salvador, Guatemala,
Honduras, Mexico,
Nicaragua, Panama)◀ **Willi Hugo Perez**
from GuatemalaAndean Region (Co-
lombia, Ecuador, Peru,
Venezuela)◀ **Pablo Stucky**
from ColombiaSouthern Cone (Argentina, Bolivia, Brazil,
Chile, Paraguay, Uruguay)▲ **Peter and Gladys Siemens** from BrazilCaribbean
(Cuba, Dominican Re-
public, Jamaica, Trinidad)
Vacant**NORTH AMERICA**

(Canada, USA)

◀ **Lynn Roth**
from USA [part-time staff]

MWCの会計について

メノナイト世界会議をサポートするために、加盟教会団体、各個教会、個人の皆さまから、継続的に献金が寄せられ、感謝しています。ただ、今年は例年よりも献金が寄せられるペースが遅く、8月末の時点では赤字になっています。とくに個人および各個教会からの献金が通常よりも集まっていません。多くの献金が寄せられる12月にどのくらい献金が寄せられるか、期待と不安が入り交じっています。

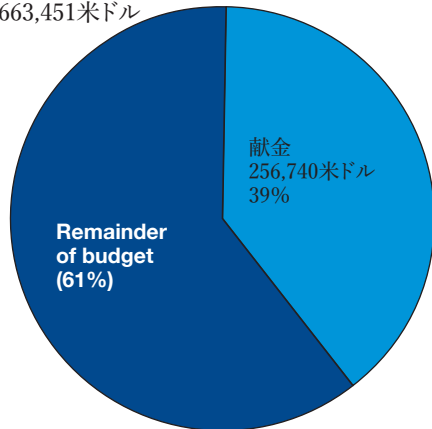
次の大会まで時間のあるこの時期にこそ、皆さんがMWCの働きを支え続けることを真剣に考えていただければ幸いです。

献金については、MWCのホームページ (www.mwc-cmm.org/donate) をご覧ください。

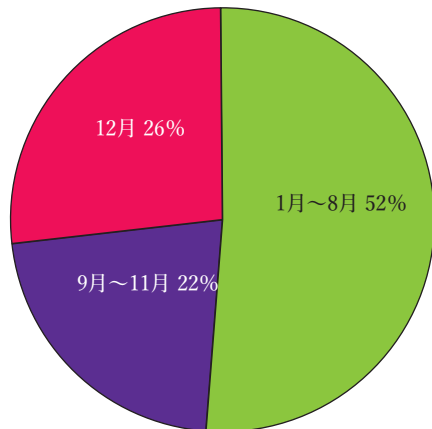
レン・レンペル (運営主任)

予算に占める献金の割合 (2016年8月31日現在)

2016年総予算
663,451米ドル



月別献金の割合



—Len Rempel, chief operating officer

Courier/Correo/Courrier survey 2016 responses

Thank you to everyone who filled out the reader survey in the April 2016 issue of CCC.

Nearly all respondents (95%) reported that they “still feel connected to the global family.”

Though some preferred to receive the magazine more frequently (10% bimonthly, 33% quarterly), more than half of respondents (57%) agreed that “twice a year is perfect,” and three quarters of our readers (79%) said 20 pages is “just the right size.”

Almost half of our respondents also connect with MWC through the website (42%) and three-quarters through our monthly e-newsletters (72%). Website engagement is highest among our French readers (87%). English readers subscribe to the e-newsletter Info in the greatest numbers (78%). No Spanish reader reported following MWC on Twitter, but almost half (47%) are fans on Facebook.

Many of our respondents say the sections currently found in CCC contain “a good balance” (60%). Readers also expressed a desire to see more “Inspiration & Reflection” (12%) and “Profiles” (16%) articles.

What our readers said

- “I appreciate the MWC picture of the dove and the world with rainbow “peace is gospel” in many languages; it is displayed in my living room!”
- “This is a good magazine that encourages me in my Christian life and connects me to other believers around the world.”
- “Keep it up so that fellowship “scattered” is ongoing among us.”
- “I hope it keeps coming either way!”
- “I am always grateful to learn about my brothers and sisters in the Mennonite world. Thank you.”

Give a gift to MWC

Your prayers and financial gifts are deeply appreciated. Your contributions are important. They will:

- Enable and expand communication strategies to nurture a worldwide family of faith,
- Strengthen our communion’s identity and witness as Anabaptist Christians in our diverse contexts,
- Build up community through networks and gatherings so we can learn from and support each other.

Go to www.mwc-cmm.org and click the “Get involved” tab for prayer requests and on the “Donate” table for multiple ways to give online.

Or mail your gift to Mennonite World Conference at one of the addresses below:

- PO Box 5364, Lancaster, PA 17808 USA
- 50 Kent Avenue, Kitchener, ON N2G 3R1 CANADA
- Calle 28A No. 16–41 Piso 2, Bogotá, COLOMBIA



MWC staff, Executive Committee members and Young Anabaptists (YABs) are avid readers of Courier.

Photos: Life TV Indonesia



MWC Publications Request

I would like to receive:

MWC Info

A monthly email newsletter with links to articles on the MWC website.

- English
- Spanish
- French

Courier

Magazine published twice a year (April and October)

- English
- Spanish
- French

- Electronic Version (pdf)
- Print Version

Mailing delays? Consider the benefits of electronic subscription. Check this box to receive your *Courier/Correo/Courrier* subscription via email only.

Name

Address

Email

Phone

Complete this form and send to:

Mennonite World Conference
50 Kent Avenue, Suite 206
Kitchener, Ontario N2G 3R1 Canada



Photo: Life TV Indonesia

一致という名の奇跡



国や集団の違いをこえた一致は、いかにして可能なのでしょうか。「バベルの塔」の時代から、いろいろな方法が追求されてきました。バベルの物語では、人々が一致を実現しようとして、共通のビジョンをもち、同じ目標をめざして働きました。そして、私たちがよく知るとおり、この試みは失敗したのです。

一致を得るために、共通の物語をもつという方法もとられました。人々がみな共通の出発点をもつという統一された物語が、人々を結束させると考えられたのです。しかし、文化を異にするさまざまな人々を巻き込めるたった一つのわくわくするような物語を見つけるのは、とても困難です。

あるいは、政治や宗教がときに試みてきたように、あらゆる違いを排除して一つの価値観を強調し、結果として多様性を破壊するという方法もあります。それが何度も失敗してきたことは、歴史が証しするとおりです。

教会の中で行われてきた方法として、群れが保持すべき信仰を箇条書きにして、群れの内と外を明確に区別できるようにするというものがあります。残念なことに、信条や信仰告白がそのような意味で用いられてきたこともあります。

グローバル・アナバプテスト・プロファイル(GAP)の結果を考えると、私たちがも同様の問いに向き合います。メノナイト世界会議(MWC)に属するこんなに多様なグループの間で、一致を導き出すことのできるものは何なのか、と。

こんにちのアナバプテストとして、私たちが何者なのかを明らかにするため、MWC加盟教会は数年にわたる調査に取り組んできました。今号のクーリエでは、この調査が示す結論の一端をみることが出来ます。記事が示すとおり、地球規模の信仰の家族である私たちの多様性は、より一層の一致のためのユニークな機会です。

それにしても、この一致を可能にするものは何なのでしょう。

それは、私たちの「共有の確信」の文言ではありません。「共有の確信」は、私たちが各々の文脈でイエスに従う経験をしてきたことの表れとして、最近つくられたにすぎません。MWC加盟教会は、この文書がなくても、75年以上にわたって一致して歩いてきました。

それはまた、共通の歴史の問題でもありません。私たちがアナバプテストの教会として、16世紀の急進的宗教改革の流れをくむことは確かです。しかし、私たちの信仰の源は、現在の私たちの多様性と同じくらい複雑であることも明らかです。

聖書によれば、可能な説明は一つしかありません。私たちのグローバルな共同体の一致は、人間の努力や人間が作り出せる何かの結果ではありません。それは私たちがこんにち喜んで受け取れる神の賜物であり、私たちの間で働かれる聖霊の為せるものです。真に一体となることができるのは、制度的な規則や儀式によってではなく、十字架のキリストのわざによるのであり、神は十字架において多くの文化と人種と民族と言語からなる新しい人間を創造されたのです。

こんにち、同じ聖餐のテーブルについて美しい多様性を祝うことができるのは、神の小羊が私たちとともにおられ、私たちの信仰の中心、私たちの一致の土台となってくださるからなのです。

さあ、一致という名の奇跡と、多様性という名の美しさを、ともに祝おうではありませんか。

セザール・ガルシア氏はMWC事務局長。ボゴタ(コロンビア)の本部オフィス勤務。